



亀中だより

No.2 令和6年4月12日 文責 岡田



For The Students!



亀山中学校は市内における外国人生徒教育の「拠点校」として位置付けられ、現在 50 名ほどの外国につながる生徒が在籍しています。令和4年度から日本語初期適応教室「レインボー」が亀山西小学校に開設され、本校で初期適応を行うことは少なくなりましたが、レインボーでの学びを終えた生徒を中心に、日本語指導、教科補充学習を行っています。必然的に本校の生徒は、海外の言語や文化、習慣等に触れる機会も増え、多文化共生を学ぶ機会に恵まれているといえます。亀山中学校としては、日本で学ぶ外国の子どもたちが困ることを少なくするだけでなく、日本人の子どもたちが、他国の習慣や考え方を知り、認め合うことのできる人へと成長してほしいと願っているのです。

かかわることから生まれる本当のコミュニケーション

今回は、3月この学校を卒業したエンジ リノカウスさんのエピソードをご紹介します。エンジさんは1年生の12月にインドネシアから編入してきました。登校初日には職員室でも挨拶をしてくれましたが、よほどたくさん練習したのでしょう、とてもはっきりとした日本語で「エンジと呼んでください。よろしくお願いします。」と結んでくれた言葉はとても印象的でした。日本語はまだ話すことができないと聞いていただけにだれもがびっくりすると同時に、彼女自身のがんばりや前向きな人柄を誰もが一瞬で感じ取りました。

ある日そんな彼女が、校内の消毒作業をしてくれていた事務補助員の小林さんに片言で声をかけたそうです。そのことを小林さんが嬉しそうに「校長先生、いい話があるんですよ」と教えてくれました。小林さんは脳出血が原因で左半身に障害がありながら、真夏でも、真冬でも運動場の草取りや校内のペンキの塗り替えなどを丁寧にしてくれています。2, 3年生はその姿を何度も見てきたことでしょう。

しかし、残念ながら、この二人には共通して理解できる言語がありませんでした。スマホの翻訳機を使って話してみると、エンジさんは小林さんに、「大丈夫ですか、お手伝いしましょうか」と声をかけてくれたそうです。まだ日本に来て間もないエンジさんが言葉も十分ではないにもかかわらず、小林さんの様子を気にかけて声をかけられたことはとても素晴らしいことだなと思いました。言葉よりも心が大切であることも教えてもらった気がしました。

たこ焼きはお好きですか？

みなさんは「たこ焼き」はお好きでしょうか。大阪名物としても知られるたこ焼きですが、お祭りの屋台に限らず、好きな方も多いのではないでしょうか。では、みなさんは「たこ」を食べない国が意外に多いことをご存じでしょうか。日本人が当たり前と思っていることが、他国では全く違う習慣といえることは少なくありません。またそれと同じく、日本人にとっては違和感があっても他国においては日常的であったり、宗教上の意味などから大切な習慣であったりすることもたくさんあるのです。

私たちの大切な仲間の中には、右のイラストの左の女の子がまとっている「ヒジャブ」というスカーフをつける生徒がいます。これはイスラム教で「自分の肌や身を守るため、大人になるまでにつけたほうがよい」と神様にすすめられるのだそうです。日本にはない習慣ですが、日本人が着物を着るのと同じぐらい、あるいはたこ焼きを食べるのと同じぐらいに当たり前のことなのです。こうした文化や習慣の違いを知り、自分の国の文化を大切にすると同じように、他国の文化も尊重し、大切にできる気持ちや考えを持ってほしいものです。みなさんはすでに学級で担任の先生からこの話を聞いていることでしょう。これからの中学校生活では、さらにこうした人権や多文化共生についてもみんなで学んでいきましょう。

